

2024 年度

千代田学事業報告

明治大学農学部アグリサイエンス研究室

岩崎泰永

2025 年 3 月 14 日

(千代田学について) 千代田区内にある大学、短期大学、大学院等が区の様々な事象を多様な切り口で調査・研究することを「千代田学」と名付け、その定着と発展、また、各学校が区及び地域と連携を図ることを目指して、事業経費の一部を補助する。

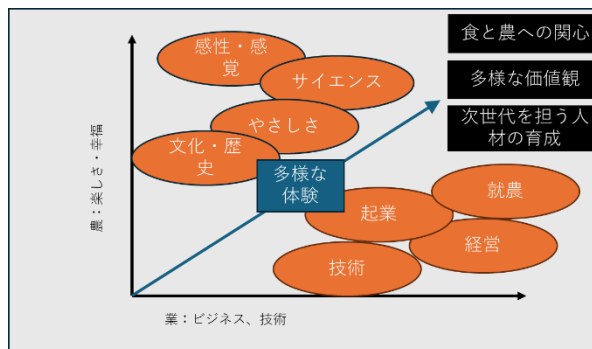
- ・実施課題名「食と農の課題について畑で考える」
- ・実施主体：黒川農場アグリサイエンス研究室・特定課題ユニット「都市農業研究所」
- ・日時 全7回:5/26、6/23、7/28、9/22、10/27、11/24、12/9（原則第4日曜日）
10時～15時
- ・場所 明治大学黒川農場および近隣の圃場、里山
- ・目的：千代田区の皆さんに親子で黒川農場に来ていただいて、農作業体験（植え付けや収穫、加工）と里山散策を行い、農業に親しみ、食料生産と環境保全や物質循環について家庭の中で話題にしてもらおうきっかけをつくる。
- ・スケジュール
(5/26) 第1回 AM 里山散策 PM サツマイモ定植
(6/23) 第2回 AM ハウスでミニトマト収穫 PM ジャガイモ収穫
(7/28) 第3回 AM・PM 養液栽培, ICT 栽培キットの説明と作成
(9/22) 第4回 AM ハウス内作業（大人片づけ、子供たねまき） PM イチゴ苗植え付け体験
(10/27) 第5回 AM 里山散策 PM 野菜の種まき、黒川農場内で収穫体験
(11/24) 第6回 AM サツマイモ掘り PM スマート農業体験
(12/9) 第7回 AM ジャムづくり PM 討論・振り返り

・概要

募集定員親子20組のところ、50組以上の応募があり最終的に22組の親子を受け入れた。毎回18組以上の参加者があった。里山散策から、野菜の種まき、植え付け（サツマイモ、イチゴ、葉物野菜）管理作業（除草）、収穫（ジャガイモ、サツマイモ、葉物野菜）に加え、水耕栽培セットとICT環境測定キットを組み立て、自宅で栽培管理を行った。SNSで常時情報交換意見交換を行い、参加者相互の交流を促進した。

植物、作物と様々な切り口で関わる機会を用意することを心がけ、イベント、レジャーとしての農業ではなく、様々な立場（生産者、消費者、農業を応援する人など）に立つてもらうことを意図した。複数回の講座で毎回異なる視点から食と農、サイエンスに関わるいろいろな機会を提供した。主催側として想像以上に手ごたえを感じた。親も子も、ほぼすべてのことに関心をもって積極的に取り組んでくれた。

農業の魅力、可能性、課題について、子供大人それぞれの視点で感じ取っていただけたのではないかと感じた。レジャーや癒しとして、イチゴ狩りやサツマイモ掘りなどの収穫体験も農業に関心を持つ人を増やすための重要な役割があると思う、一方で参加者は楽しいところしかわからない。本講座では収穫以外にいろいろな機会を提供し、楽しいことばかりでなく、作業の大変さや不確実性なども感じ取ってもらうように工夫した。最新のスマート技術の体験も取り入れた。農業に対する関心にとどまらず、参加者に多くの体験や経験をする機会を提供することにより、新しい視点や考え方で社会と向き合うきっかけとなるようにとの思いを込めた。



・結論

日本の農業や食料生産を維持発展させるためには、地道ではあるが、今回のように、親子を対象として、様々な切り口で農業や食料生産と関わる機会を提供する取り組みは極めて有効であると結露され、このような機会を少しずつでも多く開催してゆきたいと考えている。

運営には、都市農業研究所の先生方、ゼミ学生、学生農場に参加している1，2年生など多くの方が関わり、協力をいただいた。実施にあたり様々ご配慮いただいた農場職員、教員の皆さんに感謝を申し上げる。



SNS を活用したコミュニティの形成と双方向性の創出



アンケート結果の概略

1. 総括

	(5/26) 第1回 AM里山 散策	(5/26) 第1回 PM サツマイ モ定植	(6/23) 第2回 AMハウ スでミニ トマト	(6/23) 第2回 PMジャ ガイモ収 穫	(7/28) 第3回 AM・養 液栽培 キットの 説明と作 成	(7/28) 第3回 PM ICT栽 培キット の作成	(9/22) 第4回 AMハウ ス内作業 (大人片 づけ、子 供たねま き)	(9/22) 第4回 PMイチ ゴ苗植え 付け体験	(10/27) 第5回 AM里山 散策	(10/27) 第5回 PM野菜 の種ま き、黒川 農場内で 収穫体験	(11/24) 第6回 AMサツ マイモ掘 り	(11/24) 第6回 PMス マート農 業体験	(12/9) 第7回 AMジャ ムづくり	(12/9) 第7回 PM討 論・振り 返し	評価平均
3年生	5	5	5	5	3	3	5	5	3	3	5	5	5	5	4.4
3年生	5	5	5	5	3	3	5	5	5	3	5	5	5	5	4.4
3年生	5	5	5	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4.9
3年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	3	3	5	5	3	3	5	5	5	5	4.4
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	4.9
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
4年生	5	5	5	5	3	3	3	5	4	3	5	4	3	3	4.0
6年生	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4.9
中学1年生	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	4.9
	5.00	5.00	5.00	5.00	4.36	4.29	4.69	4.93	4.64	4.60	4.83	4.93	4.87	4.69	4.8

参加者 22 組（親子）のうち 17 組から回答をいただいた（回答率 77%）。5 段階評価

（5：満足，4：やや満足，3：普通，2：やや不満，1：不満，空欄：参加していない）で回答していただいた結果，すべての平均は 4.8 となった。全体的には高い評価となった。とくに評価の低かったとりくみは ICT 養液栽培キットの制作であった。おもな参加者が小学校の 3，4 年生であり，特に 3 年生の評価が低く，当初から想定されたことではあるが，難易度が高かったと思われる。個別の記載では，ICT 養液栽培キットの取り組みを評価する声もあり，方法を工夫すれば理解度が高まるとと思われる。野菜の水耕栽培は配布したミズナがかれてしまうという事態が多数発生し，急遽苗を配りなおした，しかし，それでも何割かは枯れてしまった。ICT 養液栽培キットの配布と同時に LINE を使った双方向のやりとりを開始しており，かかわった学生たちが直接回答する場合もあり，作物の状態把握のみならず，相互の関係性の構築にも効果があったと思われた。

2. 印象に残った活動内容をおしえてください

・ジャム作りは私は参加できませんでしたが、旦那と子供で体験させていただき、本格的なジャムが出来上がり持ち帰ってきたジャムを見てびっくりしました。味もとても美味しかったです！

・ジャガイモが新鮮で本当に美味しかったです。この様な経験が子供だけではなく大人も興味を持てる内容かと思いました。

・家での栽培は難しく都内のベランダでの育成は難易度が高かったです。

・ジャム作りは想像以上に上手に且つ美味しくでき、大5でした。"

・プランターに残ったブドウの根の除去、土埃まみれになりました(笑)

・農業の大変さや収穫の喜びを感じることが出来ましたし、普段やらない土いじりは楽しかったです"

・養液 ICT キットでの栽培、ジャム作り

・サツマイモの植え付けやジャガイモ収穫など、土に触れる体験が楽しかったです。

・ICT を使った栽培が出来て嬉しかったです。使って、栽培方法をどうするか考え、野菜が育つのに改善出来るまで体験出来たらもっと楽しかったかも？と思いました。

・すべての回が思い出に残りましたが、やはり親子で一緒に泥まみれになって土を掘って収穫をしたことが一番印象に残っています。収穫体験を通じて親子の絆も深まったように感じます。

・一番最初の里山散策では、里山とは何かを知ることができ、先生や学生さんから植物について教えて頂き、親子ともに大変貴重な体験をさせていただきました。

・毎回楽しく参加しました。子ども（直輝）が行く！と必ず答えるので通うことができました。直輝は、特にジャム作り、ドローン体験が楽しかったようです。私は、散策が印象的で、川崎（溝の口）に住んでいたこともあり、随分と、同じ川崎市でも風景が異なると感じました、

・水耕栽培を初めて体験し、興味深く感じました。

・収穫作業

・全てです！農作業全般、自然の野山全てが子どもにとっては初体験のことばかりでした。

・里山散策、圃場の農業体験全般。

・農場内での収穫体験です。子どもが生き生き収穫していたのが、印象的でした。

・野菜の収穫

・初回の里山散策は天候もよく本当に清々しい体験でした、歩きながらたくさんの植物を教えていただいたのも貴重な体験です。

・農場での作業を黙々とするのも日常にない時間でした。"

・センサーを使った水耕栽培

3. この講座に参加した動機、期待、目的について自由にご記載をお願いします。

・都心の方では土に触れて農業体験をする事が中々なく、親子でできるイベントもないのでインドア派の子供が興味を持ったため

・当たり前到店頭に並んでる野菜が簡単に出来る物でない、そこまでの苦労や喜んでを体験出来ればと思いました

・農業体験を通じて親子で一緒に楽しむこと、子供に農業を体験させ興味の範囲を広げさせたかったこと、野菜嫌いな子どもが少しずつでも変化すればと思ったこと。

・自然や農業に、子どもに触れさせたかったから。

他の習い事で、植物自身で電気を生み出し、そのライトで光合成する話を聞き、植物自体に興味を湧きました。また日本の食糧自給率の低さから危機感を覚え、知識を深めたいと思いました。

・私は広島県の田舎で生まれ、後ろを山、前を海という環境で育ちました。東京生まれ東京育ちの子どもにも農業など自然と触れ合う体験をさせてあげたいと以前から思っていたところ、タイミングよく今回の企画を知り申し込ませていただきました。

・千代田区という土地柄、あまり自然に触れ合う機会がない中、まして私の母校で親子で農業体験が出来るということでとても興味があり、申し込んだところ参加させて頂き感謝しております。

・1つは、小学校でチラシが配布され、直輝が行きたい！と持ち帰ったからです。動植物に興味があり理科生物に繋がるかなと思いました。2つ目は、明大でしたので、卒業生（法学部）として懐かしさと現役明大生、農学部はどのような感じであるか、子どもと行くなら頑張れそうと考えました。

・子供が農業体験を通して、持続可能な社会への関心を持つきっかけなることを期待して参加させていただきました。

・農作業体験が実際にできることに期待して参加しました。

・動植物を育てることに興味があり、ベランダでプランター栽培に取り組んでいました。高校の進学先として農業科のある学校にも興味を示しています。娘がこの講座でいろいろ体験してみたいと言っており、親も楽しみにしているため参加を希望しました。

・母が本大学本学部を卒業し（廣政幸生ゼミの3期生）、現在の趣味が観葉植物を育てることです。また日常的にそんな母の姿を見ている息子も植物に興味があり食いしん坊。さらに母の実家の家庭菜園で農作物（夏野菜や柿・葡萄などの収穫）に触れ合う経験はあるものの、息子には真なる農場や里山での体験を通して農業や環境について五感を使って考える機会になれば、と思い応募いたしました。

・農業体験を通じて、食料生産の仕組みを肌で感じて欲しいと考え、参加しました。

子どもが自然、農作業に触れる機会をいただきたい。

・子供が興味を持っていた農業体験をさせたかったのが一番の動機でした。また忙しい毎日でなかなかできない自然に触れる時間を作りたい、身近でない農業についても知ってほしいという期待もありました。

・私共は以前、世田谷区に在住しておりましたが、息子が4年生の時に千代田区に転居しました。世田谷区は農地も多く、小学校低学年の行事でさつまいも堀りや、校内にて稲作体験などもあり、区内ではみかん狩り、ブルーベリー狩り、個人でレンタル畑を借りて栽培等行っておりました。土いじりが好きなことと、息子が農業に興味があったこと、百姓貴族という漫画が好きなこと、中学受験で日本の生産物に触れたこと、大学教授およびゼミ生との関わり、設備を利用できること等、あげたらキリはございません。

4. 上記3でご記載いただいた、動機や期待、目的について、それが満たされたり、達成されたかどうか、自由にご記載ください。

・明治大学の黒川農場は、都心からも行きやすくまた、岩崎先生はじめ学生の皆様が様々な企画を考えてくださり期待以上の内容でした。

・毎月楽しみにしていました。特に収穫がある会は張り切っており良い経験になりました。

・収穫する喜びはもとより、農業の大変さも伝わったと思います・"様々なイベントを親子で楽しむことが出来ましたし、会話も増えました。また、子どもに聞いてもどの体験も楽しかったようです。自分が作ったものや収穫物にはとても興味を持ってました。当初の期待を大きく上回りましたし、子どもも可能であれば継続して参加したいとのことでした。"

・毎回素敵な企画を考えてくださり、目的は満たされました。ただ個人的に体調不良等であまり参加できなかったことが悔やまれます。

・採り立てはやはり美味しいということが分かりました。これからも新鮮な野菜を食べ続けたいと思いました。後、自分で育てるのは難しいということです。タイでは食糧自給率が100%を超えていて、輸出が成功していて、人気の職業らしいです。日本は島国なので、いつ輸入野菜が途切れるかと思うと不安です。AIで簡単に作れる。失敗する確率が低い。等欠点が少しでもなくなり、作りやすいようになったら良いなと思いました。後、添加物が世界1位なのも個人的には気になります。

・自然散策をしたり、実際に土を掘って収穫をしたことで、自然や植物、食べ物などに対する興味や理解が親子ともに深まったように思います。ネットでなんでも簡単に調べられ、すぐに答えが得られる時代であるからこそ、実際に体験をして考えることの重要性を改めて感じました。

- ・日本の農業が問題を抱える中で、子供と実際に農業体験することで、自分たちが実際に育てたものを頂く事で農業の大切さ面白さを学ぶ事ができました。また ICT 栽培を通じてこれからの農業の方向性や発展に興味を持ちました。
- ・農学部で端っこを体験させて頂き、直輝は農業やりたい！と言っています。農業とプログラミング（ゲーム作り）をしたいそうです。
- ・文系の私としては、理科は全く自信がないため、子どもに理科の興味をどうやって与えるかとも考えていたため良かったと思っています。"
- ・ある程度は関心を持てたと感じています。
- ・ほぼ毎月農作業体験ができてありがたかったです。
- ・期待以上に満たされました。
- ・ICT に関しては子どもには難しかったところもあったと思いますが、あんなことやったな、と記憶に残りゆくゆくそれに触れる機会があれば導入として生きてくると思います。講座の本題から離れたところでも学びは多く、野生のムカゴを食べたこと、大学の教室での講義体験、ジャム作りの際の消毒の徹底ぶり、などがありました。
- ・家で栽培が上手いかなかったことも残念だけでなく学びがありました。これまでプランター栽培が上手いかなとただガッカリするばかりでしたが、この経験(先生とやっても上手いかなことがある、原因としてカビや虫などいろいろあって対処もさまざまな、など)を経て取り組む姿勢が母子ともに変わると思います。"
- ・全7回にわたるストーリーのある構成は毎回実に有意義でたくさんの驚きと学びがありました。五感だけでなく全身で学ぶことができました。ありがとうございました！

目的は達成できました。ありがとうございます。

- ・子どもも楽しく、貴重な体験をさせていただきました。全体を通じてひとつの作物を育てて収穫するなど、毎回同じ作物と向き合い、育てられるような形があれば、それもぜひ体験したかったと思います。また、学生さんの素晴らしさに触れることができ、感謝しております。この世代間の触れ合いは、予想外の収穫となりました。学生のみなさんにも、しっかり、御礼をお伝えできず、申し訳ありませんでした。
- ・農場での作業や収穫体験は思っていた以上に楽しかったようです。自分で収穫した野菜を何に料理するか考えたり、調理の手伝いなども楽しそうでした。
- ・中学受験生ということもあり、全ての回に参加出来ず申し訳ございません。前述したこと、全て満たされました。特に息子は、農業体験よりも、学生の皆様から吸収したことのほうが大きいようです。

5. 農業や食料生産、それに関わることについて、 講座期間中や講座後に家庭内や親子で話題にして話し合ったことがありましたら具体的にご記載ください。

- ・スマート農業についての講座は内容は小学校4年生には難しいかなと思いましたが、いまの農業の人手不足や農業の課題等話し合い役に立ちました。
- ・植物を育てることの難しさや、収穫の大変さを学び食べることに感謝をする様になりました。
- ・作付けしたことや、大人が引っこ抜いた雑草を沢山集めた！など働いたことを楽しそうに話していました。
- ・さつまいもは、雑草を取ったり環境を整えないと大きくならないんだね。と手間を掛ける大切さを学んだと思います
- ・イチゴジャムは大変美味しく沢山頂いたので皆に配ろとしましたが、あまりに美味しいので配る人が減りました(笑)"

・養液栽培や当初のいちご栽培はうまくいきませんでした。結果として育てるのは上手くいかないこともあるし、色々な工夫が必要なことを知ったようです。

・Ict キットにとっても興味を持ち、活用の可能などの色々と話をしました。

・種まき、収穫、ジャムなどの実体験の後、生産者はどのようにしているかなど話をしました。"

・収穫した野菜を家庭で料理し、子どもたちと話し合うきっかけになりました。

・上記④のことを話し合いました。今アースクールと言う習い事で、地球に関して学んでいますが、農業も習い事みたいにして(肥料の化学反応を学んだり、自家栽培の月々の野菜を育てるとかいかがでしょう?)して、子ども達に技術を教えるのも人気が出そうと思いました。自然と触れ合えることを願っていたり、科学的なこと AI に関して興味を持っていらっしゃる親御さんは多いので、人気が出る気がしました。

・講座に参加させていただいてから、スーパーで野菜や果物を見ても産地や国名に興味を持って見るようになりました。「どこでどんな風に作ってるんだろうね」という親子の会話も増えました。ただ食べて美味しいだけでなく、理科や社会の知識とも組み合わせて世の中の仕組みにも興味を持ったようです。

・ICT 栽培キットでは家ではなかなか水菜が育たず、また苺の苗も家の中ではうまく育てることができず、どうやったらうまく育つか水の量や日光の調整について話し合ったりしました。また収穫したジャガイモやさつまいもの食べ頃の違いが面白くて一緒に料理をしたり、どんな食べ方をするか話あって楽しみました。

・もし息子の夢が目標となり進むためには、まずは、理科が得意になることと洗脳? しています。農業とプログラミングの二刀流もリモートでの仕事が進んだ今、可能かと思っています。

・農業を進める場合、都会を離れる必要があり土地を買うか借りる必要があります。また全くの素人、親も都会育ちで無知です。

(本人は近郊を想像しているようです。)"

・自給自足や、農業の大変さや難しさについて話題になりました。

気・候によって野菜ができないこと、実をつけるまでどれだけ大変か、など実際の体験を通して話しました。

・難しい話はしていませんが、とにかく収穫を喜び、収穫してきてくれたことに感謝して美味しく調理して食べました。畑で大変だったことを話したりまた参加したいねと振り返ることもしばしばあります。

・昨年の米不足による米騒動について。

・農業従事者が年々減る一方で、多くの日本人が国産の農作物を食べたいという需要に応えるにはどうしたらいいか。

・地球温暖化の影響などで災害が多い日本で農作物の国内需給を保つにはどうしたらいいか。"

・水菜の育成等を通じて、観察した結果や調べたことについて色々と会話をしました。

毎日いちごの苗の生育や水やりで、生活の中に作物が少しではありますが、入り込んでおります。

・ドローンやいちごの完熟がわかるメガネなど実際にスマート農業体験したあと、今後の農業は今と変わる?、費用や知識習得、正確なデータ収集など今の3の農家では導入は難しそう、など感想がでました。

・昨今、物価高による野菜の値上がり、夏に起きた米不足、一次産業として農業を国が支援しないと、日本は廃れるんじゃないかという話にまで発展しました。農家さんが報われる社会になってほしいです。我が家は米が好きなので、パンはあまり食べませんが、米粉がもっと普及しないかなと感じております。

6. 運営面での改善点やご要望があれば教えてください。（自由に記述して下さって結構です）

- ・先生や学生さんが色々準備してくださり、充実した内容でした。
- ・直前でのご案内が多かったので、お忙しいとは存じますがもう少し早めにご案内頂けると助かります。
- ・特にないです
- ・特になし。
- ・自家栽培を成功させたかったです。(苺は順調です。)後、マンガで興味を持つ子が多いです。もやしもんや銀の匙などは最近読んでいます。何かおすすしめがあれば、教えて欲しいです
- ・大人数の小学生親子の管理、複数回の講座開催など運営に大変なご負担をおかけしたことを思います。おかげさまでこちらは安心して参加することができました。貴重な日曜日を使って色々教えてくださった岩崎先生をはじめ、優しく接して下さった学生の方々にも感謝いたします。電車好きの息子は特に武内さんと講座の合間に鉄道トークをするのも楽しみにしていました。大学生のお兄さんを見て良い刺激を受けたようです。どうぞよろしくお伝えください。
- ・上記5度のチェックでは参加していないところにチェックするのが難しくて、3にさせていただきました。
- ・途中参加や交通手段についても、欠席の時もご丁寧な対応をしていただき誠にありがとうございました。"
- ・黒川農場以外に、もう少し近場で（例えばお茶の水の明治大学校舎）活動する日があれば良かったです。
- ・よくしていただきました。ありがとうございました。
- ・気温に対するご配慮やバスでの送迎など、手厚くお気遣いいただきありがとうございました。遠方まで電車で行くことも母は楽しかったのですが、娘は次は近くだといいなと申しております(笑)。
- ・一人っ子の子どもにとって現役の大学生と触れ合うのは良い刺激になりました。また大学の施設（教室）も新鮮だったようです。生田キャンパスにも行ってみたいです。
- ・ありません。色々のご丁寧なありがとうございました。
- ・岩崎先生はじめ、学生さんたちには、本当にお世話になりました。感謝しかありません。たとえば、月1回の活動以外に、週末各自が農園に行ける人が行って、雑草を取る、生育の様子をLINEで共有するなど、そんなやり方も模索していただけると、もっと身近に触れ合うことができると思いました。
- ・バスまで出していただき、感謝しかありません。

7. 今後あったらよいと思う活動内容や、ご提案があれば教えてください。（自由に記述して下さって結構です）

- ・内容は充実しており、是非継続して頂けると嬉しいです。農場までバスのご手配はありがたかったです。
 - ・親としては、種まきから収穫加工まで何かの作物を通してあったら面白いかなと思います。ただ、今回のようにドローン体験、ジャム作り、収穫など単発的に色々なイベントの方が子どもの5度は高いのかなと思いました。
 - ・今回のように、都内育ちの子どもに自然や農業に触れる機会をお願いしたいです。
- "⑤に書かせていただきました。

・岩崎先生やゼミの生徒さんが凄く魅力的な方たちで、明治大学に私が興味を持ちました。素敵なお先生と生徒さんにお会いできて、感謝です。"

・講座 OB として、農作業に人手が必要な時などに草むしりでも収穫でもぜひ参加させていただければ嬉しく思います。都内にいると土に触れる機会がほとんどないので、千代田区管理の区民向けの畑などがあればいいのになとも思いました。なかなか実現は難しいかもしれませんが、泊まりで山や海などキャンプに行き自然に触れ合う機会なども子どもたちは喜ぶだろうなとも思います。

・日本人の主食である稲についても教えて頂きたい、田植えや稲刈りなど体験できたら嬉しく思います。

・稲を育ててみたいそうです

・肥料づくりや土の耕し方など、実践的な活動。

・子どもが座学での内容が難しかったようなので、身近な内容だと小学生にも伝わるのかと思いました。分野が変わってしまうかもしれませんが、食、ということでは野菜の栄養について。農、ということで様々な野菜の種まきと収穫までの流れについて。

・先生方も学生の皆さんもとても暖かく優しく接してくださり、とても楽しく気持ちの良い時間でした。また次年度も参加できれば嬉しいです。この度は本当にありがとうございました。

・美味しいトマトの品種（ミニトマトとフツートのトマト両方）を育てて食べたい。バナナを育てたい。里山ハイキングしたい【息子談】

・継続的に学びの多いこの講座が続いていくことを心から願います【母談】"

現在の活動内容で十分だと思いました

・バーベキューのような、互いの距離を近くできる時間があると、よりうれしいな、と思いました。

・子供には（大人も？）難しいかもですが、

・学生の皆さんが勉強されているアグリサイエンスについていろいろ講義していただくのはいいかと思いますが。皆さんがどのような研究をされているのか教えていただきたいです。

・1年を通しての活動があれば良いなと思いました。もしくは月に1度の単発等。中学生は土曜授業がございいますので、日曜の設定はベストだと思います。このような機会を設けていただき、本当にありがとうございました。ちなみに私の母方の従兄弟は明治大学農学部卒、私の次兄は、東京農業大学卒で、母方の実家は、キウイ農家、親戚には八女茶・あまおう農家もおります。父方の親戚は、下仁田ネギ農家がございます。